



## 「スタンバード文庫」事業



福岡市子ども読書活動推進計画（第4次）

- |                    |  |
|--------------------|--|
| 1 家庭・地域における読書活動の推進 | <目標1>自分から読書に親しめる環境づくり<br>→ スタンバード文庫の配置 |
| 3 図書館における読書活動の推進   | <目標3>子どもの読書活動を支える人材づくり<br>→ 読み聞かせ講座の実施 |

福岡市総合図書館の事業の1つに、「スタンバード文庫」事業があります。

総合図書館では、毎年、市内の全公民館へ教育委員会より配布した100冊の絵本の補充を行っています。

公民館には、「スタンバード文庫」の本棚やコーナーを作っていただき、子どもから大人まで、誰もが気軽に公民館へ立ち寄り、読書に親しむことができる環境を整備して頂いています。

また公民館には、「スタンバード文庫」の本を活用し、乳幼児ふれあい教室や子育てサポーター養成講座などの教材として利用していただくなど、絵本の積極的な活用にも、ご協力を頂いています。

さらに総合図書館では、希望する公民館と共催で「スタンバード文庫」読み聞かせ講座も開催しています。

この読み聞かせ講座は、公民館の「スタンバード文庫」の本を活用し、講座を開催することで、市民の皆様に公民館にある「スタンバード文庫」のことや乳児期や幼児期の子どもへの読み聞かせの大切さ、絵本の読み方や選本の仕方等を知っていただき、ご家庭での読書活動を進めてもらうことを目的に行っています。

本年度も、福岡学校図書館読み聞かせネットワーク、福岡おはなしの会の皆様などのボランティア団体の方々を講師にお招きし、9月1日の東月隈公民館から来年の2月まで、市内24の公民館にて、講座を開催いたします。

〈東月隈公民館 スタンバート文庫コーナー〉



〈スタンバート文庫 読み聞かせ講座 : 9月1日 東月隈公民館〉



人形遊びの導入



子どもと一緒にリズムあそび



ひきつけられる赤ちゃん



保護者の方は、お子さんをあやしながら熱心にお話を聞いていました。

☆ 講師の先生のお話より

- 家庭での読み聞かせは、読み手（家族）と赤ちゃんと共有する時間や空間が大切です。本を広げて、めくっていく時間が大切です。読み手の気づきを伝えてください。
- 赤ちゃんは、話すことができるようになるために、家族（信頼できる人）の歌や言葉を貯めています。たくさんの言葉を聞かせてください。

秋の深まりを感じる今日、この頃。10月27日から、読書週間が始まります。子どもも大人も、秋の夜長、家庭でも楽しく読書に親しまれたらいかがでしょうか。また、読書週間に合わせ、図書館においても、さまざまな企画が計画されています。お楽しみください。 <須藤>



## 11月のことと人

### 11.7 立冬

「立冬」の日付は、近年では11月7日または8日であり、年によって異なる。今年では11月8日(水)である。秋が極まり冬の気配が立ち始める頃なので「立冬」とされる。太陽の光が弱くなり、朝夕冷え込む日が増える。

### 11.20 世界子どもの日

1954年の国連総会で制定。1959年のこの日に「子どもの権利に関する宣言」が採択、1989年のこの日には「子どもの権利に関する条約」が採択された。子どもの世界的な相互理解と福祉を増進させることが目的として制定される。

手塚 治虫 (1928.11.3~1989.2.9)

兵庫県宝塚市生まれ。1950年より漫画雑誌に登場、『鉄腕アトム』『ジャングル大帝』『リボンの騎士』といったヒット作を次々と手がけた。デビューから死去するまで第一線で作品を発表し続け、存命中から「マンガの神様」と評された。

寺村 輝夫 (1928.11.8~2006.5.21)

東京都生まれ。戦後早稲田大学に入学し、早大童話会に所属、創作童話を志す。56年に「ぞうのたまごのたまごやき」を発表。独自の作風で、子どもの文学の世界を広げる。「ぼくは王さま」シリーズをライフワークとして書き続ける。

まど みちお (1909.11.16~2014.2.28)

山口県周南市生まれ。25歳のときに北原白秋にその才能を認められる。詩作りは20代から始め、以来生涯にわたって詩を作り続けた。「ぞうさん」や「やぎさんゆうびん」などの、そのおおらかでユーモラスな作品は童謡としても親しまれている。

フョードル・ドフトエスキー

(1921.11.11~1881.2.9)

ロシア生まれ。『罪と罰』『白痴』『悪霊』『カラマーゾフの兄弟』などを発表し、「現代の預言書」とまでよばれる文学を創造した。ドストエフスキーの著作は、世界中で読まれ、170以上の言語に翻訳されている。

## 図書館員のひみつの本棚 第 210回

今月は、幼児から大人まで一緒に楽しめる絵本をご紹介します。

『ここはおうち』(2023年)

谷川 俊太郎／文 junaida／絵 ブルーシープ ¥2200(税別)

### <お勧め年齢>

乳幼児★★☆ 小低学年★★★★ 小中学年★★★★ 小高学年★★☆ 中学生★☆☆

高校★☆☆ 一般★★☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

### <本の紹介>

数多くの詩だけでなく、翻訳や絵本作品などでも著名な詩人の谷川俊太郎さんと、可愛らしく、緻密な絵を描かれ、近年は本の挿絵や絵本作品も多く手掛けられている junaida さんによる合作の絵本です。

この絵本は、谷川さんが書いた文章をもとに junaida さんが絵を描き、その絵にあわせてふたたび谷川さんが文章を直し、というように制作されたそうです(※)。そのように作られたことが影響しているのか、読む人がいろいろな意味に受け取れるわかりやすい文章、見る人がさまざまな感情を呼び起こす絵になっています。そのため、人によって感じ方が変わる絵本かもしれません。

(※『絵本★百貨典』(谷川 俊太郎／[著] ブルーシープ)p554~560 を参照)

### <子どもに手渡す時のポイント>

文章はすべてがひらがなで書かれているので、幼児からでも読めるようになっています。また、見開きで1枚の大きな絵となっていて、様々なキャラクターや物が細かく描きこまれているのでさがし絵のように遊べたり、またイラスト集のように眺めたりするだけでも見応えがあるので、幼児から大人まで楽しめます。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみて下さい。